

都市公共交通整備にともなうアーバン・インテリアの実証的研究 —LRT整備をケースとして—

Survey and Analysis of urban interiors created through the new urban traffic system

ペリー 史子(PERRY Fumiko)

次世代型路面電車としての LRT の導入は、単に新しい公共交通システムの一部としてとしての役割や、バリアフリーの機能性だけではなく、最終的には、都市あるいは都心エリアに、人びとに楽しく、心地よい潤いのある遊歩空間、視覚的にも魅力的な都市公共歩行者空間を創出することにあると考えられる。すなわち、都市空間への LRT 導入は、都心における歩行者のための質の高い空間、アーバン・インテリア¹⁾の拡大・創出にも影響を及ぼしてくると思われるのである。

そこで、LRT (Light Rail Transit) 導入が進んでいる欧米諸都市を対象として、LRT の車体や停留所、軌道という LRT 導入に直接かかわっていることがら、及び、LRT とその周囲の公共空間との関わりに関することがらに着目し、現地実態調査を実施することとした。調査期間は2009年9月2日から9月14日であり、調査の対象都市は、フランスのボルドー、リヨン、ナント、モンペリエ、ルマン、クレルモン・フェラン、マルセイユ、ニースの8都市とした。これら8都市は、人口14万人のルマンやクレルモン・フェランから82万人のマルセイユまでと、その人口規模には幅があり、LRT 系統数は1から3系統まで、路線総長は約9kmから40kmと、都市によって大きな差がある。

1. LRT プロジェクトのデザイン的特徴

調査対象の各々の都市における LRT プロジェクトに関して、車体(外観及び内装)、停留所(シェルターや券売機等の装置、素材、配色、照明器具)、軌道、パークアンドライド含む沿線状況等の実態を具体的に探り、一覧表を作成することを試みた。そして、各都市のプロジェクトの車体、停留所、軌道、沿線に関するデザインの特徴と景観との関係、LRT プロジェクトの全体的なデザインの特徴を探ることができた。

2. LRT プロジェクトと都心広場

現地調査を進めていく中で、LRT 路線の沿線には広場や公園が多く見られるのみならず、LRT 軌道を取り込んだ都心広場空間があることがわかった。そこで、調査対象8都市の内、6都市において見出されたこのような都心広場を対象として、広場における歩行者空間演出装置(オープンカフェ、水場、花壇・植栽、ベンチ、メリーゴーランド等)及び、一般的歩行者空間エリアと LRT 軌道敷との空間区分設定に関するデザイン調査をおこない、歩行者空間演出装置の特徴や、広場における LRT 軌道の扱われ方の特徴を見出すことができた。

補注¹⁾:アーバン・インテリアとは、筆者を含む研究グループで、「都市機能を有するインテリア空間、あるいはインテリアのような都市空間」と規定している空間である。